

平成22年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立 中里中学校 教諭 三木 美智子

- 1 派遣期日 平成22年11月26日(金)
- 2 研修先 京都市立山王小学校
所在地 〒601-8004 京都府京都市南区東九条東山王町27
<http://www.sanno-s@edu.city.kyoto.jp>

京都市立陶化中学校

所在地 〒601-8047 京都府京都市南区東九条下殿田町56
<http://www.toka-c@edu.city.kyoto.jp>

3 研修内容

文部科学大臣指定 平成22～23年度研究開発学校「外国語教育(英語)」
京都市教育委員会指定 京都市小中一貫教育校

京都市東九条地域小中一貫教育研究報告会

共通主題 「絆を深め、希望をもち、自らの生き方を切り拓く子の育成
～なりたい自分になるための東九条リンケージ 地域・人・学校～」

(1) 全体会

＜講演＞ 「小中一貫教育のめざすものー確かな学びと豊かな育ちー」

京都教育大学大学院教授 高乗 秀明 先生

○教育改革で問われること

- ・欧米先進国における教育改革

(1960年代生涯学習論登場→1970年代少子高齢化社会の到来)

- ・日本での教育改革(1980年代～)

(臨教審以降)画一から自由化・個性化へ、配給型教育から選択型へ
地方分権と自立的学校運営とコミュニティースクール

(義務教育の構造改革)2005年 義務教育の品質保証

ナショナルスタンダードとローカルオペティマム

○確かな学力を育成するカリキュラムの開発

- ・認知発達への理解とその節目への対応

(中期における教科担任制の意義と課題、個々の学びについての実態把握と支援)

- ・質の高い学力の育成と学習方法の重要性

(学力における「領域主義」と「機能主義」、学習活動(学習指導)の段階性と継続性)

- ・カリキュラムの開発における授業研究の必要性

(指導法に関する研究、子ども理解に関する研究)

○豊かな育ちを生み出す多様な集団活動の創出

- ・自立に臆病な子ども達と学校教育の課題

(大人になるということ、思春期を乗り越えるということ)

- ・異年齢集団活動が生み出すもの

(他者理解とコミュニケーション、学ぶことの意味の発見)

- ・地域社会と連携した教育活動の意義

(子どもを社会で育てること、学校を地域社会の核とすること)

(2) 公開授業

○京都市立山王小学校

未来を拓く教育の創造

～学びを自覚し、自ら学び続ける「個」の育成～

4年 英語科 指導者 伊藤 晋治 先生

(Eステップ) 単元名 What's this?

単元目標 身の周りのものや数の言い方に慣れ親しみ、クイズを出したり、答えたりする中で、コミュニケーションを図ることを楽しむ。

授業内容 “What's this ?” という表現を自然な形で使う場面として、各自で考えた「シルエットクイズ」「ブラックボックスクイズ」「ジェスチャークイズ」でクイズを出題するクイズ大会を授業展開していた。また、“What's this ?” という表現をチャンツやゲームで繰り返し使って活動していく中で、相手に質問したり、尋ねられたりのやりとりを大切に、英語の発音やリズムも意識しながら活動していた。

6年 英語科 指導者 片山 聡子先生（中学校）、藤本 智子先生

（EステップⅠ） 単元名 My Happy Week

単元目標 一般動詞を用いて、自分の思いを描いた“一週間の行動”を紹介したり、友達の発表を聞き、尋ねたりする。

授業内容 6年英語科では、名詞だけでなく動詞をつかった表現をすることも目標の一つとしていて、そこでは「安心して自己表現すること」を大切にしていた。そのため学級担任も進んで英語をつかって思いを伝えようとしたり、失敗を責めないことや発表者が偏らないことを意識したりして、和やかな雰囲気を作っていた。またチャンツやピクチャーカードで繰り返し練習をして発語しやすくし、ゲームを通して英語でコミュニケーションを図ることに慣れ親しむようにしていた。

○京都市立 陶化中学校 『人を大切に、心豊かに生きる生徒の育成』
～「確かな学力」「豊かな心」「共に生きる姿勢」を身につけた生徒の育成～

1年 英語科 指導者 高田 加寿子 先生

単元名 ONE WORLD English Course 1 Unit 3 Lesson 6

単元目標 ・canをつかった肯定文、否定文、疑問文を正しく使用できる。
・canをつかい、相手に何か勧めたり、頼んだり、「～しましょうか」と申し出る表現ができる。

授業内容 「Who am I ?」のクイズを各班ごとに協力しながら取り組み、canの用法をはじめ、be動詞や一般動詞の復習も兼ねながら授業を展開していた。そして、クイズ作り、発表、インタビューなど仲間と楽しくコミュニケーション活動を繰り返すことで「できる」「わかる」経験を重ねていた。

小6「自由キッズ」指導者（美術A）和田 舞先生、（美術B）森田 盛太郎先生
（体育A）吉田 章子先生、（体育B）大島 淳史先生
（技術）濱 昭一先生、（家庭）佐々井 美也子先生

授業内容 「中学校生活に対する不安の解消と期待感の向上」「3小学校の6年児童の好ましい人間関係の構築」「これからの自己の生き方の探究」を目的として小学校6年生を対象とした中学校教員の指導による中学校での選択教科授業である。

（3）成果と課題

- ・教職員の連携が深まった。校種や学校による違いは大きいですが、その違いを理解し、改善に向けて話し合うことが重要である。
- ・児童の中学校進学への不安が減った。「聞くこと」をはじめとする中学校英語の初期の段階で生徒の反応が良くなった。
- ・PTA・地域の関心も高まり、京都市教育委員会へ施設一体型の小中一貫教育校の要望書が提出された。
- ・時間的な課題、取り組み学年・担当者の偏り等改善を図っている。

4 感想

小中一貫教育にあたっては、小中それぞれの学校目標を再確認し、小学校の児童が中学校卒業時に身につけてほしい力を共通主題として設定することが大切だと思った。また教科・領域等の教育課程を体系的に整理し、連続性を高める必要性を感じるとともに、学力の定着に向け、小中学校教員が学校相互の学力実態を把握し、児童生徒のつまづきなどを分析して的確な改善策を図っていくことも大切であると思った。